

『林業経済』編集委員会（50音順）

山本 伸幸（編集委員長）	興梠 克久（副委員長）	原 研二（副委員長）			
石崎 涼子	市川 隆史	小川三四郎	柴崎 茂光	関岡 東生	関 良基
竹本 太郎	立花 敏	寺内 大左	早瀬 悟史	三木 敦朗	山本 美穂
事務局					
土屋 俊幸（所長）	大西 純（事務員）				

《編集後記》

新しい年度が始まった。今年は桜の満開時期が比較的遅くなり、関東では入社式・入学式を桜のある景色の中で祝うことができたようだ。購読者の方の中には、所属や役職等が替わり、新しくこの雑誌を手に取った方もおられるかもしれない。デザインはそれこそ「昭和」のクラシカルな雑誌だが、中味は、いま必要な考え方、視点、情報を提供していると自負している。ぜひご愛読をお願いしたい。

さて、上のような新読者へのご挨拶をしたのだが、今号は、比較的「硬派」の論稿が並んだ。もしかすると取っ付きにくいという印象を持たれるかもしれないが、少し説明をさせていただきたい。まず冒頭の松村・竹本論文。題目からして、本誌が主に対象とする、森林、林業、林産業、山村との関わりが少々見えにくいかかもしれない。引用論文を見ても、法学、建築学、民俗学などの分野のものが主体で、分野が違うのでは?と思われるかもしれない。しかし、本誌編集委員会は、精査の上、客観性、論理性、新規性、独創性などの面で学術論文として十分な内容を持つことは当然なのだが、「建物台帳」の位置付けに関する歴史的考察が『林業経済』誌に掲載する論文として相応しいと判断したのである。

この後者については、少し説明が必要だろう。論文の末尾でも説明されているように、この論文の筆頭著者は、2022年度の本研究所研究奨励事業の助成対象者だった。そして、その研究成果は「新潟県上越市不動地区における明治中期から昭和初期の民家—地方税制度や集落資料による建物台帳の分析—」としてまとめられ、本誌2023年9月号に学術論文として掲載されている。民家に注目した山村研究の新たな可能性を示した論文と言える。著者はその後も「建物台帳」制度に関する研究を深められ、他地域の制度との比較分析を踏まえて、本論文では全国的な制度の変遷を丹念な論文・資料の解釈から明らかにしている。つまり、本誌読者であるならば、この間の著者らの研究に導かれて、この研究対象に深く分け入っていくことができるのである。こうした研究を掲載していくことは、学会誌とは異なる学術誌としての本誌の存在意義であり、醍醐味だと思っている。

紙幅が尽きたが、上河氏による書評についても少しだけ触れておこう。氏は当研究所のフェロー研究員だが、かつて日本製紙連合会の常務理事をされた製紙業界の精通者であり、非常に専門性の高い学術書について、たいへんわかりやすくまとめていただいた。ひとまず、書評の一読を。(土屋)

研究所業務日誌（2025年3月）

3月 9日 第4回運営会議

3月 10日 森林所有者による「森林サービス産業」推進事業第1回調査委員会

3月 18日 『林業経済』3月号校了

3月 26日 第3回理事会

林業経済（月刊）

〈禁無断転載〉

定価 880円
(本体価格 800円)

編集発行人 永田 信

発行所 一般財団法人 林業経済研究所

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高闘ビル3A

電話 03-6379-5015 FAX 03-6379-3210

E-mail : office@foeri.org URL : <http://www.foeri.org/>

☆本誌は予約購読を原則とします。購読ご希望の方は直接、当研究所までお申し込みください。

1年 10,560円（送料込）（本体 9,600円、消費税 960円）

学生および院生は1年 5,500円（本体 5,000円、消費税 500円）になります。

購読料の振込先

口座名義人：一般財団法人 林業経済研究所

銀行の場合：三菱UFJ銀行 秋葉原支店

普通預金口座 4560904

郵便局の場合：振替口座 00110-1-147629

印刷 株式会社ソウブン・ドットコム 東京都荒川区西尾久7-12-16